

# 胃内視鏡検査を受けられる方へ（説明書）

- ◆ この検査は口（鼻）から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸の内面を直接観察し炎症やポリープ、がんの存在や程度を診断する検査です。
- ◆ 口腔内から食道、胃と十二指腸の一部を観察することができます。
- ◆ レントゲン検査と違い、直接目で見られるためにより正確な診断ができます。

## 【検査の流れ】

- ① 検査前日は夜 9 時以降の食事は避けてください。水のみは飲んでも問題ありません。
- ② 検査当日の朝食をとることができません。血圧の薬など常用薬に関しては、お水で内服してかまいません。
- ③ 検査前に、検査準備室で胃の中を見やすくするシロップを飲んで頂き、次に局所麻酔薬でのど（鼻）を麻酔します。さらに、胃の動きを抑えるため、肩への筋肉注射をすることがあります。また、検査を楽に受けて頂くために鎮痛剤や鎮静剤の静脈注射を行う場合があります。
- ④ 検査室へ移動後、体の左側を下に横になって頂き、内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸下行脚までの領域を観察します。必要により、病変をより明瞭に描出するために色素を含んだ溶液を散布させて頂くことがあります。また疾患によっては、顕微鏡による病理組織検査のために、病變のごく一部を採取させて頂くことがあります。
- ⑤ 検査終了後、のどの麻酔の効果が消えるまで1時間程度飲食はできません。

## 【期待される効果と限界】

食道・胃・十二指腸下行脚までの領域の粘膜面の詳細な情報を得ることができ、これらの場所にできる炎症・潰瘍・ポリープ・がん・静脈瘤などの病変を見つけ、適切な治療方法を選択できるようになります。

また、病變のごく一部を採取する病理組織検査によって確定診断が可能になり、より確実な治療方法を検討できるようになります。しかし、食道・胃・十二指腸下行脚の粘膜以外を直接検査することができません。また、数 mm 以下の微少な病變の発見は一般的に困難です。

## 【予測される偶発症】

のど麻酔や胃の動きを抑えるための注射、鎮静剤、あるいは病變部位に散布する色素を含んだ溶液が原因で、ごくまれに気分不快・血圧低下・呼吸困難などの薬剤アレルギー症状が出現することがあります。

また、内視鏡操作や病理組織検査のための病變採取に伴って、大量出血や穿孔（消化管の壁に穴があくこと）が起こることもあります。1998年から2002年の全国集計では偶発症の頻度は0.012%（8300人に1人）で、そのうち死亡に至る重篤な偶発症が0.00076%（131600人に1人）発生しています。

## 【予測できない重篤な偶発症の可能性とそれに対する対応策】

上記以外の予測できない重篤な偶発症の可能性も皆無ではありませんが、それらに対しては適宜病状を説明し最善の治療に努めます。  
入院や緊急手術などが必要になる場合もあり得ることをご了承下さい。

## 【検査における注意点】

**偶発症予防のため下記に該当する方は事前にお申し出下さい。**

- ① 歯科治療、局所麻酔薬でアレルギー症状や気分が悪くなったことのある方。  
または、薬剤アレルギーのある方。
- ② 妊娠中または妊娠の可能性のある方、授乳中の方。
- ③ 現在治療中の病気のある方、または過去に入院・治療歴のある方。
- ④ 抗凝固剤、抗血小板剤を服用されている方。  
(ワーファリン、バイアスピリン、パナルジン、プレタールなど)

なお、鎮痛薬や鎮静剤の静脈注射を行った場合、検査終了後しばらくの間ふらつき、ねむけ、目の調節障害、一時的な物忘れなどがみられることがあります。  
このため鎮痛剤や鎮静剤の注射を行った場合、検査終了後 1 時間程度お休み頂きます。

※ 検査時に鎮静剤を使用した場合、当日は終日事故予防のため車、オートバイ、自転車などご本人が運転することができませんので他の交通機関をご利用ください。もしくはご家族の運転でご来院ください。また検査後に重要な判断を要する仕事は避けてください。

- ◆ 内視鏡検査の費用は生検などの検査の有無により異なります。
- ◆ 健康保険 3 割負担の方は病理検査を行った場合、1 万円～1 万 5 千円程かかります。
- ◆ 病理検査を行った場合、内視鏡検査後 10 日から 14 日で結果が出ますので、結果説明のため再度ご来院いただきます。

医療法人社団水明会 原診療所

TEL : 0470-33-4065